E-journal GEO
Vol. 12(2) 301-308　2017

地理紀行

中国の延辺朝鮮族自治州
―図們江の中朝国境地帯を巡る―

山下　清海
YAMASHITA Kiyomi

I　はじめに

2006年10月，北朝鮮初めての地下核実験が実施された．メディアの報道では，場所は北朝鮮北東部の咸鏡（ハムギョンプクト）北道の豊渓里（プンゲリ）周辺．この豊渓里の北，約200 kmに位置するのが中国の吉林省延辺朝鮮族自治州の州都（州人民政府の所在地），延吉（イエンジー）である（図1）．

筆者が初めて延辺朝鮮族自治州を訪れたのは，北朝鮮の第1回核実験が行われた前月の2006年9月であった．核実験開始以前から，北朝鮮情勢が緊迫すると日本のテレビニュースでは，特派員が延辺朝鮮族自治州から，中朝国境を流れる図們江（トゥメンジィアン）（韓国・北朝鮮では豆満江（トウマンガン）と呼ぶ）の北朝鮮側を背景にレポートする．その雰囲気は重苦しく，視聴者には緊張感が伝わってくる．筆者が抱いていた延辺朝鮮族自治州のイメージも，「中朝国境の緊張感漂う地域」であった．しかし，現地を訪れると，実情は全く違っていた．人びとは陽気で，食生活も豊かで，留学や仕事などで日本に滞在

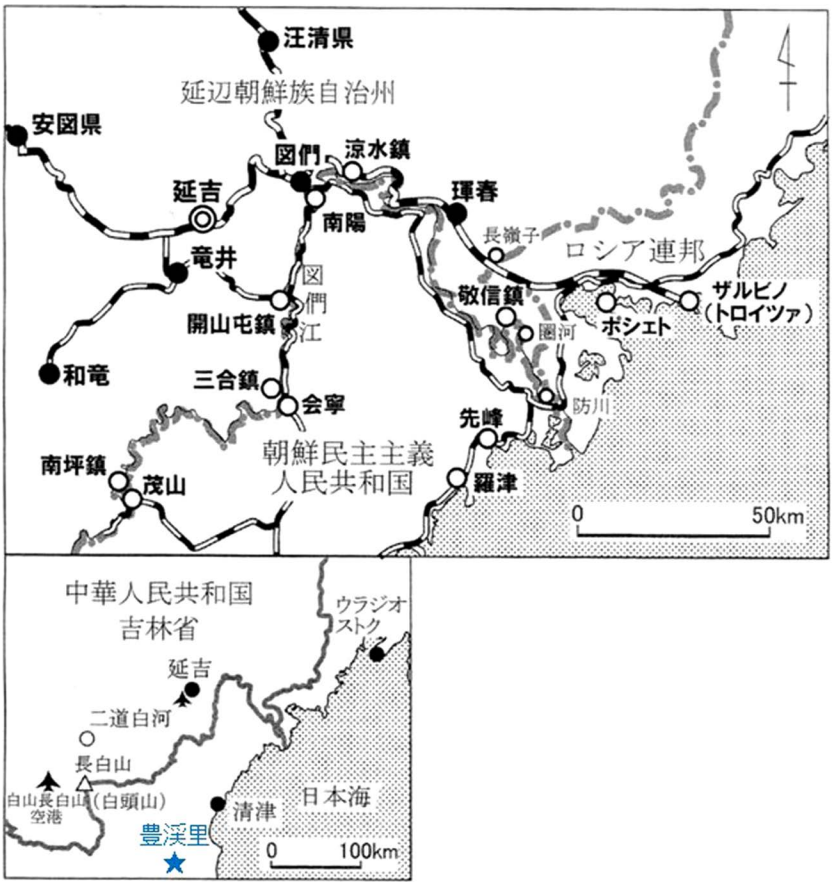

図1　延辺朝鮮族自治州の位置
松村（2014）の図に北朝鮮の地下核実験場，豊渓里の位置を加筆．

する延辺朝鮮族自治州出身者も多く，親日的な地域であった．

本稿では2006年，2007年，そして2008年のいずれも8月下旬から9月上旬に，筆者が研究代表者を務めた科学研究費[1]により，日本在留の延辺朝鮮族自治州出身者の出身地域の調査で訪れた際の記録を中心に述べる．調査の成果の一部は，すでにいくつかの論文として報告し，山下（2014）に収録されている．中でも松村（2014）は，延辺朝鮮族自治州を観光地理学的に考察したもので，同地域の地域的な特色がよく理解できる．

論文や学術書では，地域の人びとの生活ぶり，雰囲気，筆者らの具体的な体験などについては十分に取り上げることができない．しかし，そのような情報は，地域の本当の姿を理解する上で重要である．そのような情報を蓄積していけば，社会一般の人びとの地理学をみる眼も変わっていくのではないだろうか．そう思いながら，延辺朝鮮族自治州の調査時のフィールドノートを読み返してみた．

II　延辺朝鮮族自治州と延吉

延吉市内の公共の掲示や事業所などの看板は，中国語とハングルが併記されている．このような景観を見て，改めて朝鮮族自治州にやって来たという実感が湧いてくる（図2）．

延辺朝鮮族自治州は，中国で唯一の朝鮮族の自治州である．しかし，同州の朝鮮族の人口は減少傾向にある．2000年の中国人口調査では，総人口218万人のうち，39%（84万人）が朝鮮族であったが，2010年には総人口227万人のうち，朝鮮族は32%（73万人）にまで減少した[2]．これらの数字は戸籍上のもので，同州に実際に居住している朝鮮族はもっと少ないとみられている．1990年代以降，出稼ぎ，留学などで日本や韓国などへ移り住む朝鮮族が増加した．よりよい就職や教育の機会を求めて，韓国企業の進出も多い北京，上海，深圳，青島など沿海部の大都市に転出する朝鮮族も多い．朝鮮族が減少する一方で，延辺朝鮮族自治州への漢族の流入が近年著しくなっている．両親が国内や海外に出稼ぎに行き，祖父母に育てられる多数の留守児童は，特に延辺朝鮮族自治州の大きな社会問題になっている（尹2014）．

地理学研究者はもっと食文化について語るべきではないだろうか．中国の東北地方の人びと，とりわけ朝鮮族は，犬肉料理が好きである．延辺朝鮮族自治州や黒竜江省のハルビンで調査していると，「せっかく日本から来られたのなら，食事は犬肉料理にしましょう」となる．犬肉は鍋料理で食することが一般的である（図3）．延辺朝鮮族自治州の調査でお世話になった延辺大学関係者が東京に来られたので，「今夜は何を食べたいですか」と尋ねると，彼の答えは「犬料理」．新大久保の延辺料理専門店，延吉香に案内した．

犬肉鍋を味わう際に飲む酒は，アルコール度が40, 50度以上の白酒（バイジュ）と呼ばれる蒸留酒である．白酒の原料は，麦，米，コーリャン，トウモロコシなどである．白酒は湯や水で割ったりせずに，小さめのコップで何回も乾杯しながら飲む．マイペースでグラスを傾

図2　延吉市内の言語景観（2007年8月筆者撮影）

図3　犬肉鍋料理
（延吉市の韓城狗肉城，2007年8月筆者撮影）

ける飲み方は失礼である．飲みたい時には「○○さん，乾杯！」と声をかける．客人には声がかかることが多いので，アルコール度数の高い白酒の飲みすぎには要注意である．

筆者はショッピングそのものにはそれほど関心がないが，訪問先の庶民マーケットは大好きである．その地域の伝統的な生活ぶりが反映され，カラフルな光景は絶好の撮影スポットでもある．たとえば，バルセロナのサン・ジョセップ市場，ウィーンのナッシュマルクト，シアトルのパイクプレイスマーケット，シンガポールのピープルズパーク（中国名，牛車水（ニィウチョーシュィ），ホーチミンのベンタイ市場など．筆者の主要テーマであるチャイナタウンそのものも，大きなマーケット空間でもある（山下2016）．

延吉の中心部にある西市場は，まさにそのようなマーケットである．食品，衣料，雑貨など何でも揃う気取らない大衆的なマーケットである．豚肉や鶏肉と並んで，ここにも犬肉コーナーがある（図4）．

西市場の東の海蘭路には，犬肉料理専門店が並ぶ通称「狗肉街」（中国語では犬肉のことを狗肉と呼ぶ）となっている．ちなみに「羊頭狗肉」は，「羊頭を掲げて狗肉を売る」の略で，見かけと実質とが一致しないことのたとえに用いられる．しかし，現在，犬肉は羊肉，豚肉，牛肉などよりも高価な高級食材である．

「狗肉街」の犬肉料理専門店は，いずれの店も韓国人などの団体観光客の受け入れ可能な大きな規模である（図5）．延辺朝鮮族自治州を訪れる韓国人団体の目的は，犬肉料理，北朝鮮レストラン，長白山の3点セットである．

韓国では1988年開催のソウルオリンピックを前にして，世界の動物愛護団体から，「オリンピックを開催する国が犬を食べるとは」と非難された．犬肉鍋はケジャンクク（韓国語で，ケは犬，ジャンククは辛いスープの意味）と呼ばれていた．しかし，批判をかわすために補身湯（ポシンタン）（体に栄養を補うスープという意味）という名称で呼ばれるようになった．延吉に来れば「狗肉街」があり，好物の犬肉料理を，遠慮せずに思い切り味わえるのである．

2016年4月，韓国統一省は，浙江省寧波（ニーンポー）の北朝鮮レストランから，従業員ら13人が脱出し，韓国に入ったと発表した．このニュースにより，海外の北朝鮮レストランが，あらためて注目を浴びるようになった．北朝鮮レストランは，中国や東南アジアなど12カ国に約130カ所あるといわれる[3)]．

筆者らは，延辺朝鮮族自治州を訪れるたびに，毎回，北朝鮮レストランを「視察」した（図6）．2006年9月，初めて訪れた北朝鮮レストラン，海棠花飯店（海棠花は日本名ハナカイドウ，バラ科リンゴ属の耐寒性落葉高木）は強く印象に残っている．

店の前には，韓国人団体が乗ってきた大型貸切バスが3台停まっていた．店内では，正面に舞台があり，7, 8人座れるぐらいの丸テーブルが15～20席程度．1人100元（約1,500円）の手ごろなコース料理を注文．筆者らは淡水魚の刺身と焼魚，キムチなど．テーブルごとに北朝鮮の若い女性従業員が1人担当．外貨稼ぎのためだろう，女性従業員が盛んに1本，150～200

図4　西市場で販売されている犬肉
（2006年9月筆者撮影）

図5　延吉の「狗肉街」の犬肉専門料理店
（海蘭路，2006年9月筆者撮影）

図6　長白山国際旅遊賓館の北朝鮮レストラン
（2008年9月筆者撮影）
舞台の背景は長白山の天池.

図7　延吉で視聴できる北朝鮮のテレビ放送
（白山大厦，2007年8月）
ホテルの部屋のテレビで，北朝鮮のテレビ番組を見ることができる．テレビ画面はキム・イルソン（金日成）主席の記録フィルム.

元（約2,250～3,000円）の北朝鮮の焼酎を勧めた．白いブラウスと黒いスカートの地味な姿だが，日本人の目からは清楚な印象．客の注文程度の中国語はわかるが，中国語で話しかけてもあまり通じない様子．本当に理解できないのかは不明．彼女らは全員若くて美しい娘さんばかりである．脱北しないように，北朝鮮の良家のお嬢さんが選ばれているという．もし脱北した場合，地位のある彼女らの父母が大きな責任を取らせられることになる．北朝鮮レストランでは，1人の北朝鮮の男性が，終始，店内に目を配っていた．支配人のようであった.

朝鮮語がわかる人によれば，北朝鮮の女性従業員が話す朝鮮語は非常に丁寧であり，今の韓国では使われなくなったノスタルジックな話し方だという．だからこそ韓国人団体客の高年齢者の心に響くようである.

ショータイムになると，先ほどまで料理を運んでくれた北朝鮮の女性従業員が，歌手と演奏者に変身する．彼女らが朝鮮民謡や懐かしい歌を歌ったり演奏したりすると，いっそうノスタルジーな世界に引き込まれていくようであった．曲目のほとんどが朝鮮語だったが，テレサ・テン（鄧麗君）の代表曲「月亮代表我的心」などは中国語で歌った．韓国人団体客もよく知っている歌になると，韓国人の老紳士，老淑女たちが舞台で，北朝鮮従業員らといっしょに踊り始めた．韓国人団体客は，皆，満足した様子で北朝鮮レストランをあとにした.

普段，筆者は海外でも中級ホテルに泊まることが多いが，2007年8月，延吉を訪問した際には，高級ホテルといわれる白山大厦に泊まった．部屋のテレビで，北朝鮮の番組が見られるからである．夕方，放送が始まると，子ども向けの番組や，キム・イルソン（金日成）主席（1912～1994年）の業績に関連する記録フィルムなどが放送された（図7）．ニュースの時間には，長白山の天池を背景に，日本のニュース番組でもよく見かける北朝鮮の女性アナウンサーが登場した．中朝国境地帯にいることを改めて実感した.

III　長白山観光

韓国人旅行者にとって，朝鮮民族の「聖地」といわれる長白山（チャンバイシャン）（韓国・北朝鮮では白頭山（ペクトサン））への登山は，特別の意味がある．朝鮮民族の民謡「アリラン」でも，白頭山が出てくる.

「アリランアリランアラリよ／アリラン峠を越えて行く／あそこのあの山が白頭山なんだね／冬至師走でも花ばかり咲く」.

一度でよいから長白山に登ってみたいという韓国人が延吉をベースに日帰り登山を目指す．延吉で宿泊しているホテルでは，毎朝4時半頃，ドアをノックして回る音に起こされる．たいていは朝5時半頃，延吉を出発し，貸切バスで約4時間かけて，長白山の登山基地である山門に到着する.

せっかく長白山に登っても，天気が悪ければ意味がない．天気予報を見ながら，2008年9月，筆者らもワ

図8　民族舞踊の練習をする朝鮮族の婦人たち
（龍井市土山，2008年9月筆者撮影）

ゴン車で1泊2日の「巡検」に出かけた．

途中，龍井（ロンジン）市土山の道路沿いで，踊りの練習をしている朝鮮族の婦人たちを見かけて，車を停めた．写真を撮ってもよいか尋ねると笑顔で承諾し，全員，さらに陽気な表情で踊りを再開した（図8）．「お茶でも飲んでいきなさい」と家の中に通してくれた．初対面の外国人であるのに，非常に歓待してくれた．

これまで中国での筆者の経験では，漢族の場合，初対面の場合，ある程度警戒心をもって接されることが多かった．しかし，信頼関係ができると，最初の硬い表情は一変し，本当に親切に接してくれるようになる．韓国を訪れた際にも，延辺朝鮮族自治州の朝鮮族と同様のホスピタリティを感じることが多い．やはり同じ民族の共通性なのだろうか．来訪者に対する日本人の伝統的なホスピタリティも，中国朝鮮族や韓国人に近いような気がする．朝鮮族でも高齢者の場合，中国語が不得手の人が多い．別れ際に下手な朝鮮語で「コンガンハセヨ！」（お元気で！）というと，皆，笑顔で手を振ってくれた．

中朝国境線は朝鮮半島の最高峰，長白山（2749 m）を分断する．頂上付近にはカルデラ湖（南北4.4 km，東西3.5 km）の天池（ティェンチー）が美しい風景の象徴となっている．北朝鮮レストランの舞台や北朝鮮のテレビニュースのアナウンサーの背後などには天池の風景が多用されている．

長白山の北坡山門からシャトルバスに乗り換える．さらに天池までの登山は，専用の四輪駆動車に乗り換え，ジェットコースターのような猛スピードで急勾配の坂道を上る．

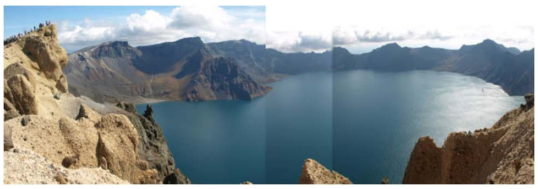

図9　長白山のカルデラ湖，天池
（2008年9月筆者撮影）
外輪山から撮った3枚の写真を合成．

写真で何度も見ていた天池は，青い大きな湖だった．天池の上空には雲一つない快晴で，北朝鮮側までよく見通せた（図9）．「心がきれいだと，天池がよく見えるんですよ．以前，中国のとても偉い方がここを訪れた際には，残念ながら曇っていて天池は見えなかったそうですよ」と，中国人の案内人が意味深に説明してくれた．

IV　図們江沿いの中朝国境地帯

中朝国境地帯は，毎年訪れる際に区域を分けて巡検した．延辺朝鮮族自治州と北朝鮮の国境線は522.5 kmにも及び，長白山と並んで図們江は，延辺朝鮮族自治州の重要な観光資源である（松村2014）．

図們江の上流から下りながら沿岸地帯を見ていくことにしよう（図1）．当然ながら，図們江の上流では，川幅が狭く，延辺朝鮮族自治州側から北朝鮮の町や村がよく見える．両国の間を流れる図們江の穏やかな流れを見ていると，この川の中央に国境があることが，嘘のように思える．

三合鎮（サンホーアジェン）の図們江の岸辺に立つと，対岸の村で犬の鳴き声が聞こえてきた．畑で農作業中の北朝鮮の農民の話し声も聞こえてくる（図10）．北朝鮮へ通じる橋がある三合口岸（コウアン）（「口岸」は出入国検査場の意味）近くの望江閣という高台からは，北朝鮮側の会寧（フェリョン）の町が望めた．三合鎮を少し下った開山屯（カイシャントゥン）口岸の高台からも，北朝鮮の村や，収穫間近の黄色い稲穂の水田が見えた（図11）．望遠レンズで，図們江の岸辺を眺めていると，双眼鏡でこちらを見ている北朝鮮兵士と目が合ってしまった．筆者がいる場所が中朝国境であることを実感させられた．

図們江の国境観光の名所として，最も有名なのが，図們市の図們江大橋である．全長535 m，幅6.6 mのこ

図10　三合鎮の図們江（2006年9月筆者撮影）
川は浅いため，対岸の北朝鮮までは，泳がずに歩いて渡れそうである．右端は松村公明先生（立教大学）．

図11　開山屯口岸の高台から見た北朝鮮の村
（2006年9月筆者撮影）

の橋の中央には，白いペンキで書かれた中朝両国の国境線が引かれている（図12）．この図們江大橋を歩いて行き来する人びとの姿が絶えない．

終戦間近の1945年8月9日，ソ連は日ソ中立条約を一方的に破棄し，満州に侵攻してきた．満蒙開拓団員ら在留日本人を守るはずの関東軍は，いち早く朝鮮方面へ逃亡した．その際，ソ連軍の追跡を防ぐため，図們江にかかる橋を爆破した．このような橋は，中国語では断橋（折れた橋）と呼ばれる．

図們江大橋の東に位置する図們市涼水鎮（リァンシュイチェン）には穏城大橋がある．この橋も断橋である（図13）．この辺りでは，図們江の川幅も三合鎮付近（図10）の2, 3倍に広がっている．北朝鮮側の岸辺で，素っ裸で川に飛び込んで遊んでいる子どもたちの姿が見えた．思い切って「アンニョンハセヨ！」と大声で叫んでみた．すると，彼らがこちらに向かって手を大きく振ってくれた．中朝国境の重苦しいイメージが一気に吹っ飛んだ瞬間であった．望遠レンズで撮った写真をあとで拡大して驚いた．川から上がって服を着た痩せた姿は，子供たちでなく大人たちだった．国境の川で泳いでいたのは北朝鮮の兵士たちだったのかもしれない．

図12　図們国境の展望台から見た図們江大橋
（2006年9月筆者撮影）
橋の手前側の白線が中国・北朝鮮の国境線．対岸の北朝鮮の南陽市の建物がよく見える．

図13　図們市涼水鎮の穏城大橋
（2008年9月筆者撮影）
橋の中央部で関東軍によって破壊され，北朝鮮側とは断絶されたままである．

穏城大橋の近くにある涼水阿里郎（リヤーンシュウイアーリーラーン）辺境旅遊区で朝鮮族が経営する農家楽（都会人が田舎料理を楽しむ）スタイルのレストランで昼食をとった．食事ができ上がるまで，周辺を散歩していると，1人の青年が川の浅瀬に立っていた．気になったので，レストランの経営者の奥さんに尋ねてみた．「さっき，変な男の人がいたんですけど？」，「その人，どちら側から来

図14　琿春市密江鎮にある甩湾子橋
（2008年9月筆者撮影）
対岸の左側の建物は，北朝鮮兵士の監視小屋である．橋の上では，収穫した農作物が干され，傍には農民の姿も見えた．

た？」，「どちら側から来たかはわかりませんが，もし北朝鮮側から来た人なら，どうしますか？」と聞いてみた．「もしその人が脱北者なら，かわいそうだから，飯を食べさせて，若干のお金を渡して見逃すよ．警察に通報すると，北朝鮮に送り返されて，ひどい目にあうし，あの人たちは自分らの同胞で，かわいそうな人たちだから」と正直に話してくれた．

琿春市密江鎮にある甩湾子橋は，長さ約500 mの断橋である．朝鮮側に撤退した関東軍が破壊した地点は，かなり北朝鮮よりであった．このため，橋の断絶部分まで歩いていくと，北朝鮮の兵士と監視小屋が，目と鼻の先に見えた（図14）．さすがに，ここでは「アンニョンハセヨ！」と声をかけるのがはばかられた．

琿春市の中心部の南15 kmに防川がある．ここの観光キャッチフレーズは「一眼望三国」．すなわち，防川にある国境監視塔の展望台からは中国・北朝鮮・ロシアの三国が一望できるのである（図15）．防川から図們江を約15 km下れば日本海である．中国人旅行団体のガイドが，盛んに「リーベンハイ」と言っていた．すなわち，中国でも日本海は「日本海」と呼ぶのである．

防川の国境監視塔から眺めると，海のない吉林省や黒竜江省の人びとの「あと約15 kmで海に達する」という悔しさが伝わってくる．延辺朝鮮族自治州の住民の中には北朝鮮へ旅行に行って，初めて海を見たという人に何人も会った．改めて，北朝鮮との距離の近さ

図15　琿春市防川展望台から見た中国・北朝鮮・ロシアの国境地帯（2008年9月筆者撮影）

を再認識させられた．

V　おわりに

フィールドノートの記録を見ながら，中朝国境地帯の地域の姿，人びとの生活ぶりなどを描いてみた．

最近の北朝鮮情勢の緊迫化により，本稿で取り上げた中朝国境地帯へ外国人が訪れることが規制されるようになっている．『地球の歩き方』の最新版によれば，2016年9月現在，穩城大橋も甩湾子橋も橋の上を歩くことは禁止され，外国人が防川の国境監視塔に行くこともできなくなっている．

このような状況が，いつまで続くのか先行き不明である．現在，近づくことができなくなってしまった地域の姿を書き留めてみた．少しでも参考になれば幸いである．

注

1）基盤研究（B）（課題番号18401035, 2006～2008年度）「増加する華人ニューカマーズの中国における送出プロセスの解明」（研究代表者：山下清海），および基盤研究（B）（課題番号21401035, 2009～2012年度）「中国における日本への新華僑の送出システムに関する研究」（研究代表者：山下清海）

2）中国朝鮮族，人口減少の訳．DailyNK Japan, 2016年08月27日．http://dailynk.jp/archives/72886（最終閲覧日：2017年11月7日）による．

3）「北朝鮮の国外レストラン，集団脱出　従業員ら13人，韓国入り」朝日新聞（2016年4月9日），および「軍高官や外交官も亡命　韓国，脱北を積

極公表」日本経済新聞（2016年4月12日）による．

文　献

尹　秀一　2014．海外出稼ぎに伴う僑郷の留守児童問題――吉林省延辺朝鮮族自治州．山下清海編著『改革開放後の中国僑郷――在日老華僑・新華僑の出身地の変容』221–241．明石書店．

「地球の歩き方」編集室編　2016．『地球の歩き方　大連　瀋陽　ハルビン　中国東北地方の自然と文化 2017～18』ダイヤモンド社．

松村公明　2014．吉林省延辺朝鮮族自治州における僑郷の国境観光．山下清海編著『改革開放後の中国僑郷――在日老華僑・新華僑の出身地の変容』242–261．明石書店．

山下清海　2016．『新・中華街――世界各地で〈華人社会〉は変貌する』講談社．

山下清海編　2014．『改革開放後の中国僑郷――在日老華僑・新華僑の出身地の変容』明石書店．

〈著者略歴〉

山下　清海（やました　きよみ）

1951年福岡県生まれ．筑波大学準研究員，秋田大学講師・助教授・教授，東洋大学教授，筑波大学教授を経て，2017年4月より立正大学地球環境科学部地理学科教授．理学博士，専門地域調査士．専門はエスニック地理学，東南アジア・中国地域研究，華僑・華人研究．主な著書に『新・中華街――世界各地で〈華人社会〉は変貌する』（単著　2016年　講談社），『世界と日本の移民エスニック集団とホスト社会――日本社会の多文化化に向けたエスニック・コンフリクト研究』（編著　2016年　明石書店）などがある．

ホームページhttp://qing-hai.org/